

いのちと地域を守る



【防災の取り組み】災害時は隣で助け合ふことを実感した参加者。毎年一人づつ当選する参加者。町内会や自治会は、住民に対するもっと情報発信し、参加を呼び掛けるべきだ。
—潮路南第一ハイツ自治防災委員長・菅原さん(47)



【参加口】高層マンションの被害を受けた経験で、地域で助け合ふことを実感した参加者。毎年一人づつ当選する参加者。町内会や自治会は、住民に対するもっと情報発信し、参加を呼び掛けるべきだ。
—潮路南第一ハイツ自治防災委員長・児玉直人さん(60)



【参加口】震災時の様子で公衆電話の活用法を学び、自分自身が立ち向かう。他の被災者は、被災者を助ける意識で、被災者の取り扱いを進める。
—潮路南第一ハイツ自治防災委員会事務局長・山崎美加さん(39)



【災害時の心】八潮市は災害対策が落ち込んでいるところでもあります。埋立地でもあります。液状化現象が起こりやすいからです。
—潮路南第一ハイツ自治防災委員会事務局長・貝瀬弘泰さん(67)



【災害時の心】品川区は、住む限り身に付けるべき防災知識として、必要な情報を提供する。語学や運営会員単位で行政と相談しておく必要があると思った。
—潮路南第一ハイツ自治防災委員会組織本部長・野野原博さん(55)

むすび塾に参加して

東京・品川区八潮団地

語り部から
前仙台市荒巻小校長 大谷義昭さん

マンション管理士 畑中泰治さん

避難者450人受け入れ



団地の備え

■災害対策基金を設立する



■橋に段差ができる車通行できるように鉄板、土のうを用意する



東日本大震災の教訓を生かすため、河北新報社は団地に自らと一緒に地震に備える巡回ワークショップ「むすび塾」を開いています。名称には、地元の人々とのつながりを強め、防災・減災に結び付けたいとの思いを込めました。

東北に加え、全国の巨大地震が心配される地域でも開催し、将来の災害に備えます。

■団地内の店舗と災害発生時の支援協定を結ぶ



■公衆電話は災害時優先電話。あまり見かけなくなったので普段から利用を



減災・復興支援機構理事長 木村 拓郎さん